

## 第1回 北陸新幹線の工程・事業費管理に関する検証委員会 主なご指摘事項

令和2年11月17日（火）10:00～12:00  
於：中央合同庁舎3号館1階共用会議室

### 工期の現状と工期短縮策について

- 3年前倒しの時点で間に合うと思っていたのか。どのような計画を具体的に立てていたのか。
- 盤膨れについて、外力のデータはあるのか。
- 盤膨れについて、地山強度の変化に関するデータを示してもらいたい。
- 敦賀駅については、当初から複雑な構造であったのか。それとも上下乗換設備の追加で複雑な構造となったのか。設計変更による時間のロスがあったのか。3年前倒しや上下乗換設備の追加時に、工期に間に合うかの判断根拠が大雑把であり、もう少し対応可否について詰めるべきではなかったのか。
- 敦賀駅の作業スペースが不足していた件について、地元との協議状況はどうであったか。もっと早い段階で協議すべきであったのではないか。また、追加コストをかけてもスペースを確保することを検討しなかったのか。
- 敦賀駅の経緯については、更なる詳細資料を用意願いたい。

### 工事費の現状での増嵩見込みについて

- 増嵩について、今まで既に執行している分と今後想定している分をわけて説明すること。
- 事業費の増嵩について、毎事業年度どのように見込み額を内部データとして蓄積していたのか。

### 情報管理、リスク管理について

- 全体としてこのような問題があったというスコープがない。様々なリスク要因（気象条件、コロナ、事故、人員・資材確保、協議状況等）としてどのような問題があって、どのように対応してきたのか。また、今後発生し得るリスクや工期短縮に関するリスクも整理しておくこと。
- ヤード確保として栈橋を整備した木ノ芽川の氾濫リスクはないのか。
- 手続き関係で遅れが生じたことはないのか。また、今後遅れるリスクはないのか。
- 工程管理委員会や総額管理委員会のようにオフィシャルなもの以外にも機構内部でどのような検討を行っていたのかも報告していただきたい。
- トンネルの話は最近のことだと思うが、敦賀駅は平成29年10月に構造変更されており、もっと早い段階で遅れることがわかっていたのではないか。機構内部での情報共有の状況を報告していただきたい。
- 契約の状況に関する自治体との情報共有の実績について検証事項に追加していただきたい。

以上